

第6章 まとめと今後の課題

まとめと今後の課題

I はじめに

ここでは、この調査研究で実施した研究のまとめとして、1) 障害のある子どもの教育に関する情報提供体制についての検討、2) 盲・聾・養護学校の Web サイトからの情報発信の活性化に関する検討、3) Web アクセシビリティの向上に関する検討、4) e ラーニングの活用の在り方に関する検討、について述べる。次に、今後の課題について述べる。

II 障害のある子どもの教育に関する情報提供体制についての検討

障害のある子どもの教育に関する情報提供体制についての検討に関しては、教育委員会及び教育センター等の Web サイトによる情報提供の状況と保護者団体の Web サイトによる取組について報告した。これらの検討を通じて得られた知見について、以下にまとめる。

1. 障害のある子どもの教育に関する情報の提供状況

平成 18 年度の調査結果では、教育委員会の Web サイトで、トップページに障害のある子どもの教育に関する項目があるものは 56.9%、教育センター等の Web サイトにおいては 75.0%となっていた。障害のある子どもの教育に関する情報をより一層普及させていくために、今後さらに多くの機関において、障害のある子どもの教育に関する項目がわかりやすい場所に置かれることが重要である。

2. 教育委員会の Web サイトにおける情報提供内容

教育委員会の Web サイトにおける情報提供内容については、平成 17 年度と平成 18 年度のいずれの調査結果においても、教育施策情報が最も多く、次いで盲・聾・養護学校情報が多かった。教育委員会の Web サイトでは、教育施策に関する情報提供や障害のある子どもの教育の実施状況に関する情報提供が中心になっているといえる。

3. 教育センター等の Web サイトにおける情報提供内容

平成 17 年度と平成 18 年度のいずれの調査結果においても、教育センター等の Web サイトにおける情報提供内容では、研修事業情報が最も多く、次いで教育相談事業、その次に研究事業情報が多かった。教育センター等の Web サイトでは、教育センター等の中心的な業務であるこれらの事業に関する情報提供の取組が行われている。

4. 学校支援情報の提供状況

学校支援情報については、教育委員会の Web サイトで

は、平成 17・18 年度ともに、障害理解・支援情報が最も多かった。教育センター等においては、平成 17・18 年度ともに、障害理解・支援情報が最も多く、次に教材・教具情報が多かった。教育委員会や教育センター等の Web サイトにおいては、障害のある子どもの指導や支援を行う際に参考になる情報提供の取組が行われているといえる。

5. Web サイトによる情報提供における役割分担

教育委員会と教育センター等の Web サイトによる情報提供内容には違いがみられているが、今後は、これらの機関の情報提供における役割分担を一層明確にし、相互に補完し合うような情報提供を行うことが、効率的に情報提供体制を整備していく上で重要である。

6. 保護者団体の Web サイトによる情報提供

障害のある子どもと保護者への支援については、さまざまな保護者団体の Web サイトによる情報提供の取組が行われている。保護者団体の Web サイトによる情報提供では、主として会員を対象とした情報提供が行われているが、障害のある子どもと保護者のニーズに応じたきめ細かな情報提供において、これらの保護者団体の Web サイトからの情報提供の果たす役割は重要である。

(渡邊 章)

III 盲・聾・養護学校の Web サイトからの情報発信の活性化に関する検討

1. 地域のセンター的な機能を果たすための取組

特別支援教育では、盲・聾・養護学校に対して、センター的な機能を果たすことが求められているが、多くの地域・学校において、その実際の運用は今後の課題となっている。

特別支援に関わるほとんどの学校でインターネット接続がされていることから、本研究では、Web をベースにした地域連携システムを構築し、地域連携における活用の取組を行った。これは、いつでもどこでも情報を共有でき、コミュニケーションを促進することができるなどのメリットを持っており、このような取組の今後の広がり期待される。

また、本研究では、サーバー設置等を大学と附属養護学校間の連携によって行ったが、一般の公立学校では、教育センター等や民間企業のレンタルサーバーなどを利用する場合もあると考えられる。こうした学校における地域連携の取組を支えるためには、パソコン等を利用できる教員を増やすことだけでなく、簡単なサーバー管理が可能な教員の養成・研修も、学校における利用環境の整備とともに

求められると考えられる。

(太田容次)

2. Web サイトからの情報発信を活性化させるための校内体制作り

福井県立福井東養護学校が、初めて Web サイトを公開するまでの取組とサイト更新過程における、情報コンテンツの作成方法や校務分掌との関係、本校・分校・分教室間における情報のやりとり等を検証することにより、課題となった点を報告した。そして迅速、活発な Web サイトでの情報発信を可能にするための校内体制作りについて提案した。

Web サイト公開に際しては、「ホームページの作成と公開に関するガイドライン」、「インターネット利用規程」、「児童生徒の個人情報管理・運用規定」を策定、施行した。そして、迅速かつ活発な更新を行うために必要な決裁については、校内運用規定を検討し、更新内容によって処理票 A、B を設け、全職員による検討のち更新する場合(A)と簡易処理によって迅速に更新する場合(B)とに分けることによって可能とした。また情報発信を活性化するためには、Web サイトの更新について全職員が直接的または間接的に情報発信を心がけることが大切であることが示された。

迅速かつ活性化された Web サイトからの情報発信は、学校教育活動をより多くの人々に理解してもらう有効な手段であり、地域に開かれた学校づくりにつながると考える。
(滝川国芳)

IV Web アクセシビリティの向上に関する検討

Web アクセシビリティの向上に関する検討については、第一に、アクセシビリティ点検ソフトを使って、都道府県と政令指定都市の教育委員会及び教育センターの Web サイトのアクセシビリティを調査した。指摘されたアクセス上の問題の数とその種類を分析したところ、1 ページ当たり 10~40 個の問題があるサイトが多かったこと、指摘頻度の高かった問題は文字のサイズ・フォント・色を固定していることが明らかになった。公的機関の Web サイトとして、今後これらの問題への対応が求められる。

第二に、当研究所 Web サイトの刊行物のページのアクセシビリティを、視覚障害のある利用者が調査した。具体的には、調査者がスクリーンリーダ(画面読み上げソフト)を使って刊行物情報を得ようとしたとき、刊行物のファイルを容易にダウンロードできるか、ダウンロードした PDF ファイルを読めるか、という二つの事項を点検した。その結果、ファイルが読めないという問題がいくつかの刊行物についてみられるとともに、リンクの説明がわかりにくい、ファイルが大きすぎてダウンロードに時間がかかる、など

の問題も具体的に指摘された。これらに対して修正案も示したので、早急な対処が求められる。

(渡辺哲也)

V eラーニングの活用の在り方に関する検討

eラーニングの活用については、WB Tシステムを使った取組、CMSを使った Web サイトのコミュニケーション機能を使った取組を2つ報告した。前者は福岡教育大学障害児教育講座及び障害児治療教育センターとの共催で情報教育を担当している教員を対象に講習会を実施し、後者は、盲ろう児童生徒担当教員を対象に実施した講習会と、情報教育を担当している教員を対象に研究所の研修事業での講習会の取組であった。

WB Tシステムを使った講習会では、事前に講習会の内容を学習できる点がメリットとして挙げられるが、学習者の理解についての評価についてさらに検討が必要であることが示唆された。今後は Web コンテンツでの学習だけでなく、メールや Web を使ってデータのやりとりを行ったり、サポート用の会議室システムを組み合わせ使ったりすることを検討する必要がある。

盲ろう児童生徒を担当している教員を対象に実施した講習会では、CMSシステムのコミュニケーション機能を使って受講者のフォローを行った。講習会の後ということもあり、受講者間で共有している知識や経験をお互いに確認している中での Web ベースのコミュニケーションということで、受講者間の情報共有が有効に行われた。

また、情報教育を担当している教員を対象の講習会では、研修の各ステージごとにインターネットを使った研修の有効性について報告した。

今後は、テレビ会議システムの利用など、文字ベースでの学習だけでなく、映像を使った取組についても検討を行う必要があると考えられる。

(小野龍智)

VI 今後の課題

特別支援教育では、LD、ADHD、高機能自閉症を含む障害のある子どもの自立や社会参加に向けて、指導や支援を行うことが目指されている。そのため、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等におけるLD、ADHD、高機能自閉症等の障害のある幼児児童生徒への教育支援体制の整備が重要な課題となっている。今後は、これらの幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における障害のある幼児児童生徒の指導・支援のための情報提供体制の整備が重要な課題であると考えられる。

(渡邊 章)